

# 東京女子大学英語教育

## 外部評価報告書

キャリア・イングリッシュ・アイランド及び

キャリア・イングリッシュ課程について

2020年3月

東京女子大学英語教育外部評価委員会

東京女子大学英語教育外部評価委員会名簿

うちだ さとる  
内田 諭氏

九州大学大学院言語文化研究院 准教授

かわばた ひとし  
川端 均氏

エスディーテック株式会社

デザインエンジニアリング部 テクニカルマネージャー

やまさき  
山崎 のぞみ氏

関西外国語大学外国語学部 准教授

(委員は 50 音順)

2020年2月25日

東京女子大学  
英語教育自己点検・評価に対する評価結果

外部評価委員 内田 諭

【総 評】

東京女子大学では(1)「リベラル・アーツ教育をとおして培われた識見と語学力をもとに、国際社会で活躍できる『行動的な英語力』を身につけた人材を育成する」こと、および(2)「プレゼンテーション、ディスカッション、および、そのための思考力、リサーチ方法、論旨構成法、英語表現法等の総合的な力を身につける」ことを目標として、キャリア・イングリッシュ課程（CE 課程）が設置されている。また、全学生を対象とした「キャリア・イングリッシュ・アイランド」（CEI）では、学生が主体的・自律的に学ぶための「場」を提供している。

このような取り組みは、グローバル人材を育成する上で非常に効果的なものであると評価でき、CE 課程の学生の成績やアンケート結果などからもその価値が伺える。

また、CEI というプログラムの象徴的な場所を学内に設置したことは、学生への意識付けに大いに有効であると評価でき、今後も継続的で安定的な運営を期待したい。

（優れている点）

CEI の優れている点として、多様な「しかけ」を用いて学生の英語力向上、モチベーション維持を図っているということが挙げられる。「ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング」、「セミナー・講演会」、「アメリカの大学からのインターンシップ学生との交流」など、様々な企画を通して多角的に英語を学ぶことが特徴であると言えるだろう。また、英語学習に重点を置いたライブラリも用意されており、自律的な学習のための教材も揃っている。

CE 課程では、民間英語能力試験を修了資格の一つとすることで、学生のモチベーション維持への貢献だけでなく、効果測定の仕組みが担保されていることも特筆すべきである。事実、CE 課程の学生のスコアは伸びており、成果が出ていると評価できる。

（努力課題）

努力課題の一つとして、CE 課程からの離脱率の高さをどのように改善するかが挙げられる。CE 課程は3年間の長期的なプログラムであるため、学生のモチベーション維持が難しく、根拠資料によると3割前後の学生がプログラムを辞退している。教員あるいは大学院

生などによるチューター制度を設けるなどして、定期的な面談や聞き取りを行うことが求められる。

CE 課程の 2 つ目の目標(上記(2))について、アカデミックな力を涵養することが掲げられているように思われるが、報告書を読む限りでは、この点が十分ではないように思われる。この面を改善するためには、CEI で実施している「海外大学とのビデオ・カンファレンス」の回数を増やし、CE 課程履修生に参加を促すなどの方法が考えられるだろう。お互いに大学で学んでいる専門科目についての情報交換やプレゼンテーション、ディスカッションを通して、より高度な学術英語力が身につくと期待できる。

2020年3月3日

東京女子大学  
英語教育自己点検・評価に対する評価結果

外部評価委員 川端 均

【総 評】

厳しい大学受験を終えた後は授業でしか英語を学習しないという大学生が多いのは長年変わらない傾向と思われ、しかも大学での英語の必須授業が2年次までとなると、英語力はそこから下がり始める。そのような状況において、「英語を活用するためのモチベーションを高め、将来へのキャリア展望を育成する」ことを目的とし、「行動的な英語力」の習得を目標とする CEI / CE 課程は、学生が4年次まで英語学習に取り組める有益な機会であり、しっかりした評価と対応が行われてきたことにより、取り組みの効果が現れている。特に日本にいと英語で話す機会が少ないので、CEI の英会話トレーニングは学生にとって貴重であり、そのことは参加学生数に現れていると思う。

上記目的・目標は、量的な面と質的な面の両方を備えている。多くの学生のモチベーションを高めるといった量的な面と、特定の学生の英語力を国際社会で役に立つレベルまで高めるといった質的な面である。CEI は主に量的な面で、CE 課程は質的な英語力向上を目指していると思われる。

2019年度のCE課程生募集に対する応募数が60名より少なかったのは、学科専攻再編によってCE課程の役割の一部が国際英語学科に移ったためであると捉える必要があるかもしれない。CE課程としては人数減少という問題になるとしても、大学全体で見れば、変わっていないという評価になる可能性がある。CE課程は質的向上を目指すべきであり、量も維持しようとするとなりがおろそかになりかねない。人数を確保すべきかどうかの判断は難しいと察するが、CE課程/CEIの枠を超えた大学全体での評価を今後行って判断すべきかもしれない。

TOEICのOLPC導入効果は非常に顕著であると感じる。特に、2018年度、CEIの英会話トレーニングへの1年次参加数が30%減少しているが、一方でTOEIC OLPCの受講者が多いという傾向は興味深い。英語への関心が、英会話よりも就職に直結するTOEICに向いていて、早い段階から取り組んでいるのかもしれない。ある程度点数が上がると関心が向く方向が変わり、英会話トレーニングの参加者が増えるかもしれないので、学年が上がったときの変化を見ていくといいのではないかと考える。

(優れている点)

CEI の英会話トレーニングで、受講生の英語力にばらつきが見られるようになると、クラスをレベル分けするなど、適切な対応が取られ、量と質のバランスがうまく考えられている。

交流会は、非課程履修者に CEI / CE 課程に関心を持ってもらう良い機会になっていると思う。CE 課程生への応募が減少し始めている状況であれば、1 年次との交流会を強化し、特に入学したばかりでまだ学習意欲が高い 4 月に実施すると、CEI / CE 課程のいずれにも良い影響をもたらす、CE 課程生への応募も増えるのではないかと考える。

(努力課題)

1 学年の学生数を 900 人とすると、4 学年で 3600 人。英会話トレーニングの年間延べ利用者数が約 2900 人なので、1 人 1 回の利用だと仮定すると約 80% もの学生が毎年利用していることになる。実際は複数回利用している学生もいるはずなので、これも考慮して実利用者数でも評価すると、より実情が見えてくるのではないだろうか。また、CE 課程履修者には CEI を積極的に利用することを強く推奨しているということなので、課程履修者と非課程履修者、さらには国際英語学科学生に分けた利用者数を評価することも価値があるように思う。

「1-1 1) ネイティブスピーカーによる英会話トレーニング」で記載されている学生アンケートは大変良い結果であるが、サンプル数 (32 名) が年間の延べ参加学生数より 2 桁も少ないことには疑問を感じる。これは、良いアンケート結果だけを使っているのではないかという臆測につながりかねないので、サンプル数を増やした結果を使用するか、サンプル数が少ない理由を記載するなど、何らかの修正を加えた方がいいのではないかと考える。

2020年 2月 20日

東京女子大学  
英語教育自己点検・評価に対する評価結果

外部評価委員 山崎 のぞみ

【総 評】

本学キャリア・イングリッシュ・アイランド(CEI)とキャリア・イングリッシュ課程(CE課程)は、生涯にわたって主体的に学び、社会に貢献する女性を育成するキャリア教育に基づく取組として、全学的な英語教育の重要な一翼を担っている。英語運用能力の強化に留まらず、プレゼンテーションやディスカッションなど国際社会で活躍するためのスキル養成や国際交流を目的とした幅広いプログラムが提供され、本学のリベラル・アーツ教育への寄与は大きい。社会や大学内の変化を考慮しながら、運営委員会やスタッフによって定期的に点検、改善が行われており、全学生の多様なニーズに対応しようとする適応力・機動力が優れている。結果として、多くの学生が目的や関心に合った方法、程度で本プログラムに参加しており、教育効果に大きく貢献している。

(優れている点)

全学より選抜された学生を対象に3年間かけて行う正課教育(CE課程)と、誰もが自由に参加できる正課外教育(CEI)の二本立てが効果的に連動しており、それぞれの特徴や内容の学生への周知も十分なされている。全学対象のCEIにおいては、英会話のクラス数増加やレベル別クラス編成などの対策によって多様なレベルの学生のニーズに応えている。選抜されたCE課程履修者はCEIの積極的利用が促されており、非課程履修者への刺激となっているようである。一方、CEIのみ参加可能な非課程履修者が各種プログラムに参加を躊躇することがないように、親しみやすい案内やポスター、説明会で丁寧な説明や勧誘がなされている。

選抜された学生が学ぶCE課程は、中～上位レベルの英語力のある意欲や意識が高い学生が発信系技能のレベルアップを目指す上級プログラムとして、特別な機能を果たしている。4年次でのプレゼンテーションを集大成として体系的に履修を積み上げていくカリキュラムは課程履修者の間で評価・満足度が高い。英語力だけでなく、日本語使用の場でも有用なプレゼン・討論技術、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力を涵養する、段階的で系統立った授業内容は優れており、CE課程最大のアピールポイントであろう。大多数が最後のプレゼンテーション実技試験の合格水準に達していることから、授業の充実と効果が伺える。課程修了の認定要件も厳格で合理的かつ明瞭で、ルーブリックの導入な

どによる評価基準の可視化も検討されるなど、修了者の質保証の努力も恒常的になされている。

また、2018 年度新設の国際英語学科で必修の 2 年次後期留学に対応すべく、CEI での IELTS 対策講座や IELTS に関する個別相談の実施を行うなど留学支援にも力を入れている。さらには留学によって単位取得に支障が出ることがないように教育課程の改正も行っており、留学と CE 課程の両立を可能にするための措置を柔軟にとっている点も評価される。

#### (努力課題)

報告書にもある通り、課題の一つは、CE 課程の登録者で 3 年間のプログラムを修了しない学生がやや増加していることへの対処である。上位レベルの学生の授業満足度が低めであることを考え合わせると、履修者のレベルの二極化が考えられる。学生の伸びる時期や意欲の高まる時期が様々ということを見ると、応募機会が一度だけでなく複数回あれば理想的だが、体系的カリキュラムの実践との兼ね合いが難しい。

また、2018 年度 1 年次の CEI 英会話クラス参加者数が大幅に減少したことや、2019 年度の CE 課程応募者が少なかったことについて、2018 年度の国際英語学科新設やスタディ・アブロード・プログラム開始といった教育課程改正の影響が示唆されている。実践的な英語力養成のプログラムが強化された国際英語学科の趣旨は CEI/CE 課程の趣旨と重なる部分が大きく、今後、両者をより有機的に連動させることが望ましい。

国際英語学科の学生に対しては、留学準備講座、留学後の英語力維持のための講座など、留学を主軸にして CE 課程プログラムを位置づけることも考えられる。現在、留学準備と CE 課程応募・開始の時期が重なる負担があるため、非現実的かもしれないが、CE 課程開始時期をもう少し前倒しできれば、学生は留学と課程を併走させやすいかもしれない。国際英語学科以外の学生に対しても、留学と課程修了の両立へ意欲をかき立てるさらなる施策が期待される。